

学校経営の方針

「あい」ある学び舎の創造

～自律・尊重・感謝～ (令和4年制定)

1 学校教育目標

2 めざす生徒像 三中スローガン 「日々挑戦!! 共に伸びゆく三中生」

(平成2年制定)

(1)

しなやかな生徒

(認め合う生徒)

明朗

柔軟な考え、レジリエンス、他者理解(認め・許す)、相談、相互

(2)

たくましい生徒

(磨き合う生徒)

気力

心身の健康、目標・夢実現に向けた努力、自分らしさの追求
困難から逃げない心の強さ

この3つのめざす生徒像について、生徒と対話しながら「生徒のもの」にしていく。

(3)

品格のある生徒

(高め合う生徒)

荘厳

ありがとう、礼儀、正しい判断、清掃・給食・ボランティア、
出会いを大切にする気持ち、貢献

※校章は「明朗」「気力」「荘厳」の象徴

3 めざす学校像

ワクワクする学校

(1) 生徒にとって、明日を楽しみに通える学校

⇒ 明確な目標・仲間と協働・成長の実感

(2) 教師にとって、同僚性があり、夢と理想を語り合い、働きがいのある学校

⇒ お互い様・お陰様、役割を超えて(のりしろ)、
積極的な真面目な雑談

(3) 保護者・家族・地域にとって安心感があり、子どもが学ぶことを誇りに思う学校

⇒ 応援のしがいのある学校

4 めざす教師像

生徒理解に努め心に寄り添う教育を実践する教師

(1) 力量を高め、授業改善を進める教師

対話的・協働的な活動とICTの活用を重点に

教科学習 ⇒ 深い学び

特別の教科 道徳 ⇒ 考え、議論する道徳

特別活動 ⇒ キャリア教育

総合的な学習の時間 ⇒ 個人探究

(2) 研修に努め、子ども・保護者・地域・同僚から信頼される教師

キャリアに応じた研修、学区小学校との連携(小中一貫)

明朗、情熱、丁寧な説明・対応、不祥事のない学校

(3) メリハリをつけ働き方改革を推進する教師

優先順位、心身の健康に留意した声の掛け合い

5 地域との連携 地域の資源を有効に活用する

- ・ 三コミ活動(小学生が憧れ、在校生が誇りを持ち、卒業生が愛着を持つ活動)
- ・ マコモ植栽ボランティア等の地域学校協働活動(白鳥を愛する会)
- ・ **健全育成推進委員会**(3つのコミ振、41の自治会、第3、第4民児協、主任児童委員、青少年育成推進員、少年補導員、保護司、交通安全協会3つの支部長、3つの学区防犯協会会長、2つの交番等)との連携
- ・ 小中一貫教育

「三コミ活動」を地域と共に持続可能なものにしていくために関係機関と協議し、整理していく。

6 経営の方針

三中学区小中一貫教育目標を経営の柱にする。

三中学区小中一貫教育目標達成に向けた経営

自分と仲間を大事にする三中学区の人づくり ～「かかわり」と「自律」～

- (1) 学習指導要領や教育委員会等の方針や重点をふまえ、「新しい時代に対応した生きる力」の理念に基づいた経営を進める。
- (2) 「自立し社会に貢献できる大人になる基礎を築く大切な時期」を担う教育を推進する。
- (3) 「つながりと信頼」を大切にし、学校・家庭・地域が連携する学校運営を推進する。
- (4) 教育課程を工夫し、メリハリがあり充実した学校教育活動になるように努める。
- (5) 特別支援教育の推進を図ると共に、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に努める。
- (6) 多くの人と交流する事で、生徒の可能性を広げ、他者理解を深める。
- (7) 安定した学級経営を基盤にし、3 **支援**部体制による知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。
- (8) 教職員は「チーム酒田三中」として力を合わせ明るい職場づくりに努めるとともに、効果的・効率的な教育課程の工夫や組織としての引き継ぎを大事にし、働き方改革を推進する。
- (9) 保護者や地域、関係機関等と連携し、安全・安心・安定した、地域と共にある、特色ある学校づくりに努めると共に、生徒、家庭・地域、同僚に「優しい三中」を意識した学校経営を行う。

「指導」から個々の自立を促す「支援」の共通認識

7 経営の重点

居場所づくりと、絆づくりの支援

あらゆる場面で生徒指導の三機能を意識した教育活動を展開する。

○生徒を主役、主語にした、「対話」を大事にする学校づくり

「対話」とは、 $A+B \rightarrow A'+B'+\alpha$

AとBが出会う。相互作用が始まる。AもBも変わる。そして、新しい価値なり制度なりが生まれる。

これまでは $A+B \rightarrow A$ 同化主義「郷に入れば郷に従え」 $A+B \rightarrow A+B$ 統合主義 or 分離主義

【志水宏吉「学力格差を克服する」より】

○生徒への問いかけ

「どうしたの?」「どうしたいの?」「そのために私にできることは何かな?」

自己決定を促す声掛けを通した「対話」を大事にしていきます。保護者の皆様からも意識していただければ…。

「これからがこれまでを決める」(これまでがこれからを決めるのではない)

「変えられるのは自分と未来」(他人と過去は変えられない)

- (1) 教 務 部 生徒じっくり向き合う教育課程の編成
- (2) 学校研究 テーマごとの授業改善と「総合的な学習の時間」における個人探究
- (3) 学習**支援** 学習『聴考伝』 学習習慣の形成 (CBT の活用)
- (4) 生徒**支援** 話し合い活動の充実 異学年との交流
- (5) 健康**支援** 生活時間の自己管理 清掃・給食活動の見直し
- (6) 学年経営 **新たな不登校を生まない集団づくり いじめ未然防止と早期発見・早期対応**
- (7) そ の 他
 - ・部活動「地域移行」の検討
 - ・働き方改革のさらなる推進
 - ・校内倫理委員会の運用
 - ・**学校安全計画の見直しと改善(非常時対応、交通安全ヘルメット着用等)**

通常学級在籍生徒の「個別の指導計画」を活用した支援

令和6年度の重点的な取り組み

1 現学習指導要領「完成年度」(スタートから5年)に向け、目指す授業の姿へ協働で取り組む。

「複眼思考で」

○生徒の学びはどう進化したのか?を問い直す。

「指導と評価の一体化」学習評価・テストはどうあるべきかの再確認。

単元(題材)毎のテスト、レポートやパフォーマンステスト等多様な評価場面を設定するとともに、定期テストを各学期「学期末テスト(業者テスト)」として実施する。

把握した個々の状況に応じた手立てを講じ、次の指導に活かす。

○3つの力をバランスよく育んでいるか?を問い直す。

授業との連動、個々の興味関心に応じた学び等、主体的な家庭学習となるように保護者への啓蒙や生徒の自覚を促す取り組みを行う。

○個業から協働となる研修の保証と充実に取り組む。

教科内で「指導と評価の一体化」が実践できるように、単元毎に振り返りと次単元の確認を話し合う。各教科3年間で育てたい資質・能力を明らかにした各単元計画評価基準を作成する。(R7～生徒配布できるように…)

学年内では、道德の授業や学級活動、総合についての分担等を話し合い、協働する。

その他、授業改善に向けたICT研修や生徒指導・教育相談研修等、研修機会を確保し、「協働で学び合う集団」づくりを進める。

2 特別な支援を要する生徒(不登校、不適應も)支援を充実させる。

「誰一人取り残さない」

○個別の特性や学習状況、出欠状況をもとに通常学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒を把握し、必要に応じて「個別の指導(支援)計画」を作成・活用を図り、個別の支援を充実させる。

○「特別支援委員会」を機能させ、研修の充実を図り、特性の理解・特別支援教育に関する基礎的な知識や対応方法等を全職員が身に付け、全校で支援体制を進める。

○小学校との更なる連携を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を継続して行えるようにする。

3 働き方改革、休日部活動地域移行等、三中の「これから」を構築する。

「持続可能」

○部活動、休日のクラブ振興会等、それぞれの約束事等を再確認した上でそれぞれ募集し、全て生徒本人の意思による「任意加入」であることを徹底する。

休日部活動地域移行に向け、クラブ(教員不在)での校内利用のマニュアルづくり、休日の協会・連盟主催大会への参加の在り方等、検討を進める。(二・三・六中合同検討会も)

○働き方改革を確実に進める、

留守番電話を設定(夏季18:30 冬季18:00)し、業務時間帯をはっきりさせる。

定時退勤日の月2回(繁忙月は1回)設定、計画的な年休取得等、教職員個々の事情に応じたワークライフバランスの実現させる。

各々の校務を面談等で見直し、スリム化を図り、活き活きと働ける職場環境づくりを進める。